

選舉權ニ關スル調査資料

第一年齡ニ關スル件

（一）年齡ニ關スル我國選舉法ノ立法並法案ノ沿革及其ノ理由

年	次	年
齡二	法明	
十	律治	
五	第	
年	十二	
二十五年	號年	
(二政	法明	
府十	律治	
提	第三	
案)	七十	
二	三三	
十	號年	
五	法大	
年	律正	
	第	
	六	
	八	
	〇	
	號年	

(參照) 一、滿二十年ヲ以テ成年トス (民法第三條)

二、貴族院（イ）有爵議員（貴族院議員令第四條）
（ロ）多額納税議員（同第六條）
三〇五年

三、地方制度總テ二十五年ナリ
（府縣制第六條、市制第十四條、町村制第十二條等）

(二) 法案ノ沿革

年次	大正八年	大正九年二月	大正九年七月	大正十年	大正十一年
憲政會案	四十一議會	四十二議會	四十三議會	四十四議會	四十五議會
國民黨案	二十五年	全	全	全	十五年

(三) 理由

(イ) 二十歳説ノ主張

今日ノ日本ノ有様ニ照ラシテ二十年以上トスルヲ適當トス(第十二回衆議院議員會修正中村彌六)成年ニ達シタル者ハ治産ノ能力モアリ又兵役ノ義務モ負フテ居ルモノナルカ故ニ選舉權ヲ與フルモ差支ナシ(第十三回衆議院議員會修正中村彌六)成年者ハ既ニ法律上總テノ行爲ノ自由ヲ有ス外國ニモ其ノ例アリ(第十四回衆議院議員會修正中村彌六)滿二十年以上ノ男子ハ既ニ徵兵ノ義務ニ服シ又法律上社會上自己ノ行動ニ付凡テ責任ヲ負フモノナルカ故ニ之ニ選舉權ヲ與フルハ當然ナリ(第十四回衆議院議員會修正中村彌六)

(ロ) 二十五歳説ノ主張

二十年ノ時代ニアリテハ仍學校ニアルカ又ハ學校ヲ出テタル時ニシテ思想未タ定ラス此ノ際ニ於テハ之ニ政治上ノ大權ヲ與ヘサルヲ可トス(第十二回衆議院議員會修正中村彌六)成年ニ達スルモ尙修業年齡期ニアルモノニハ選舉權ヲ與ヘサルヲ可トス(第十三回衆議院議員會修正中村彌六)

（第十三回衆議院議員會修正中村彌六）

二

年齡滿二十歳以上ノ男子數調

年	滿二十歳以上ノ男子數調
別	大正七年十二月三十一日現在
滿二十歳以上	一五、七八九、四八二
滿二十五歳以上	一三、三九八、二三八
滿三十歳以上	一一、三二一、三四七

備考

一大正七年十二月三十一日現在數ハ本籍人口ニシテ大正十年十二月刊行國勢院統計書ニ據ル
二大正九年八月一日現在數ハ地方制度改正ノ參考資料トシテ内務省地方局調査ニ係ル現住人口トス

三

年齡ニ關スル外國立法例

國名	性別	現行選舉資格年齡	現行民法ノ成年期
英吉利	男子	二一	二一
佛蘭西	男子	二一	二一
獨逸	男子	二〇	二一
北米合衆國	男子	二一	二一

國名	性	現行選舉資格年齡	現行民法ノ成年期
伊太利	男	二一	二一
白耳義	男	二一	二一
瑞西	男	二〇	二〇
奧太利	男	二〇	二〇
露西亞	男	一八	二一
普魯	男	二〇	二一
丁抹	男	二五	二五
和蘭	男	二三	二五
西班牙	男	二五	二五
波蘭	男	二一	二一
チエツクスロバキヤ	男	二一	二一
極東共和國	男	一八	二一
瑞典	男	二三	二三
諸威	男	二三	二三
加奈陀	男	二一	二一

第二性ニ關スル件

一 女子選舉權ニ關スル我國ノ立法並ニ法案ノ沿革及其ノ理由

(一) 立法ノ沿革

未タ女子選舉權ヲ認メタルモノナシ

(二) 法案ノ沿革

未タ女子選舉權ニ關シ法案ノ提出セラレタルモノナシ

(三) 理由

婦人ニ對シテ選舉權ヲ與ヘルコトニ付テ内務大臣ノ御意見如何(高木益太郎)婦人ニ選舉權ヲ與ヘル必要ハナイト思ヒマス(第二十八回衆議院(原)内務大臣答辯)婦人ト男子トヲ區別スルノ理由無シ且國會ハ國民全部ノ縮圖タルヘキモノナルヲ以テ女子ニ對シテ選舉權ヲ拒否スヘキモノニアラス(第四十一回貴族院(原)山本一馬)選舉權ノ擴張ハ時代ニ相應シ順ヲ追フテ爲スヘキモノデアルト思ヒマス(第三次内務大臣(原)答辯要旨)